

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当施設独自の理念を施設内の見やすい場所に掲示している	見学に来られた方たちにもご理解いただくよう努めている
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	当施設の理念は、ミーティング時職員に説明し周知を行っている	新しく入った職員にも理念の共有・実践に向けて努力している
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	行事や運営推進会議を通して、施設の理念を説明・理解できるように取り組んでいる	左記の通り
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	当グループホームが2階部分に位置しているため、やや入りにくいようである。	病院と併設なのでリハビリや、デイケアをりようされている方達に遊びに来てもらったり、遊びに行ったりできる様に努めていきたい
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りなどを通して交流を行っている	夏祭り以外でも散歩等を通して交流を深めたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	月一回行うミーティングで話し合いをしているが、なかなか実践が出来ていない		もっと地域に貢献できるような取り組みを行っていきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員には毎回外部評価及び自己評価の趣旨を説明して、改善に取り組むようにしている		職員にも自己評価・外部評価を見てもらいながらどういった改善が必要かを話し合い、意見を出してもらっている
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にてグループホームの状況を報告し理解してもらいながら、サービスの向上に取り組んでいる		運営推進会議の委員にも、議題に取り上げて貰いたいこと等を聞きながら運営している
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現状では運営推進会議以外に行き来する機会が少ない状態である		運営推進会議以外にも出来るだけ頻繁に連絡を取りながらサービスの向上に取り組みたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会等で職員の周知をはかっている		ミーティングの機会をとらえ職員に権利擁護の理解してもらっている
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待については管理者、職員共に関心が高く、当施設内においても、虐待の無い様に注意している		高齢者にとってどういう事がストレスになり虐待に繋がるのかを職員全員に周知理解してもらっている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等の説明を文書に沿って行い、疑問点に関してはそのつど尋ねながら説明を行っている		契約等のその場のみでなくその後疑問に感じる事が無いかをこちらからも尋ねて十分な理解を得る様にしている
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口は施設内の見やすい所に掲示している。また職員が利用者に対して現在の生活に不満や不安が無いか尋ねている		施設内での利用者についてケアをしている時間等を活用しながら行っている
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会や、電話連絡時等に利用者の状態がどうなのか変化等を報告している		電話連絡必要物品の連絡等ちょっとしたことでも利用者の状態がどうかを時々に応じて行っている
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口は施設内の見やすい所に掲示している。また職員が利用者に対して現在の生活に不満や不安が無いか尋ねている		運営推進会議においても家族代表等に現在当施設に関して苦情や意見が無いかを確認している
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回行うミーティングで話し合いをして意見を反映できるように取り組んでいる		運営者や管理者も職員に聞き取りを行い運営について意見を集めている
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ターミナル等も実施しているため利用者の状態に合わせ勤務調整をしている		実際に過不足なく職員を確保し取り組んでいる
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者がケアの方針などに対して職員に対応し極力離職を防ぐ様に努力している		左記の通り行き気心のしれた職員で対応を行う様にしている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務の中で常に指導者がアドバイスをしながら新しい職員の教育を行っている	新人教育の指導等は日勤のリーダーが担当する等の工夫をしている
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年間の行事予定にも外出を設けながら、定期的に外出が出来る様にしえんをしているが、ボランティアの方たちとの交流の機会、行事への家族の多数参加など機会を計画している	左記のとおり
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日々の申し送りを通してスタッフの悩み、介護方針の検討を日々行っている	日々の申し送りで利用者の生活の質の向上職員の労働環境の改善が出来る部分は無いかも話している
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	月一回の全体ミーティングを通し施設方針の統一、指示を行い向上心の啓発に努めている	週一回併設医院とのミーティングを行い医療的な相談、指示をもらっている
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者についてケアを行う際に本人から今の生活について不安や不満が無いかを聞き、それを受け止めるよう努めている	入浴やケアを行いながら聞き取りを行い早く施設に馴染める様に信頼関係の構築に努めている
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	訪問された時や物品の連絡等の機会をとらえ介護の相談を行っている	訪問時に不安を解消できるように対応している

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームのみでなく、関連施設等の紹介も行い安心してサービスを利用できるように支援を行う		他の関連施設とも連絡をとりながら、その時々に応じたサービス利用が出来る様に対応している
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と相談しながら、なるべく早く環境の変化に慣れるよう面会、外出の回数を調整して少しずつ施設に慣れて貰うように努めている		利用者本人の得意な事をしてもらいながらホームの一員としては入れる様に家族の情報などをもらいながら協力を頂いている
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共同生活の場として利用者一人一人に出来るだけ何か役割をもってもらいながらお互いさまという協力関係を築いている		日々の生活の中で掃除や洗濯等の家事を積極的に手伝ってもらいながら、施設で一方的に介護を受けているのではないことを意識してもらおう努力をする
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族にオムツ等の持ち込みや、病院受診の付き添いを依頼しながら利用者出来るだけかかわる時間を作ってもらっている		職員側からも連絡を密にして、家族と利用者の関係が希薄にならないよう努めている
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	出来る限り家族との関係が希薄にならない様に定期的に職員が連絡調整を行っている		家族に負担がかかりすぎないように調整を行っている
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく友人、知人等の面会が出来る様に家族に協力してもらっている		家族から友人、知人にも面会にきてもらえる様に連絡できる体制を整えたい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者がお互い協力しながら出来ない所を助け合える関係が作れている		助け合いだけでなくトラブルも防止するように職員も常に利用者の会話の様子を観察しトラブルを未然に防ぐ様対応している

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後はご家族の意向もあり頻回に連絡等は取っていない		退所後のフォローがいつそうできるよう取り組みたい
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランやアセスメントを通し本人の希望・思いが充分理解できるよう利用者自身の立場にたって考慮している		モニタリングを活用しながら利用者にとってどういうサービスが必要か検討している
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族・本人に聞き取りをしながら利用者が得意にしていた事、趣味等を把握して孤立しないよう努めている		入所以前に利用していたサービスについてもどのような状態であったかを聞き取り調査するようにしている
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日頃の生活の様子等を観察して本人の状態を細かく把握できるように努めている		利用者担当の職員を中心に、現在の心身の状態の把握に努めケアをおこなっている
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族への利用者に関する聞き取り、職員にもアセスメントをとってもらいながら、それらを総合したプランを作成している		左記だけでなく本人とも話す時間を作りながら、充実したプランが出来る様に努めている
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現在急激に変化した利用者は無いが、そういった場合にも早急に見直しができるように日々の記録に目を職員間でのミニカンファレンスを行っている		ミニカンファレンスは申し送り等を利用し話し合いを行っている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミニカンファレンス等では職員のきずき等はたくさん出るが記録としてのこしていける様にしたい		きずきにかんする記録を行い、より一層利用者の状況を把握出来るようにしたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ケアプランの説明等を行う際に利用者・家族に要望を聞きながらケアプランに反映させるようにしている		病院との併設等のメリットを活かしたサービスの提供が出来ること等を利用者、家族に知ってもらうようにしている
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域資源の活用については利用者からの要望が無く具体的にどの機関との協力というような体制は出来ていない		様々なニーズに対応できる地域との連携を密にしていきたい
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者からの要望が無い為現在はおこなっていない		今後他のサービス事業者とも連携がとれるように体制を整えたい
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	利用者家族からの要望が無い為行っていない		現在、運営推進会議にて利用者の状況報告は行っている ので必要に応じ対応できる
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医院が併設の為、必要に応じ適切な医療が受けられる体制である		専門的な治療が必要な場合についても、すぐに行えるよう協力体制が出来ている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	併設の医師が認知症の認定医である	左記のとおり
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	施設職員の中に看護師もいるので、日々の健康管理はできている	左記のとおり
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	利用者の入院等に関しては状態の確認、退院の相談など密に連携を保っている	左記のとおり
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	現在もターミナルは行っており、併設の医院の医師と連絡を密にとり利用者の状態に柔軟に対応できる状況である	左記のとおり
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	現在もターミナルは行っており、併設の医院の医師と連絡を密にとり利用者の状態に柔軟に対応できる状況である	出来る出来ないことは其のつど家族に連絡して理解してもらっている
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	環境の変化による利用者へのストレスを軽減する為、別の場所に移る際には、情報提供を行っている	当施設の担当者から利用者の詳しい情報を提供し連絡を行っている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーの保護のため無断で記録、情報等の持ち出しは行っていない	左記のとおり
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員が業務優先にならない様に出来る限り利用者の生活のペースに合わせた支援をしている	役割を持ってもらう場合にも、職員が付き添いながらかんさつを行い、その利用者が自ら進んで役割をしてもらえるか見守りしている
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	上記のとおり業務優先にならない様に出来る限り利用者の生活のペースに合わせた支援をしている	レクリエーション等への参加も利用者に話を聞きながら無理のない様に参加の意向を確認している
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族の協力も得ながら利用者が馴染みのある美容室、または身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している	外出等が必要な場合は家族に協力を得て行っている
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態をみながら食事の手伝い等の協力を得ている	食事の好みについては、その利用者の希望を出来るだけ尊重して提供している
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	家族にも協力を得ながら、本人の好きな食べ物等の持ち込みをしてもらっている	現在お酒、たばこについては利用される人がいないので提供は行っていない

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	食前、食後等にトイレ誘導を行い、または随時行いながら利用者一人一人の排せつパターンを把握出来るよう努めている		時系列に沿った記録の出来る排泄チェック表を作成して、記録を行い排泄パターンの把握に努めている
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴日を利用者ごとに決めているが希望があれば入浴日以外でもできる体制をとっている		失禁等も頻繁にあるが其のつど清潔を保つためシャワー浴を行っている
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中はレクリエーションへの声掛けを行い、出来るだけ活動してもらい、夜間は安眠できるよう努めている		夜間の不眠を訴えられる方に対しては、会話をしたり、場合によっては軽くおやつを摂取してもらうなどして安眠できるよう支援をしている
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人一人の趣味、希望に合わせた役割やし好品の提供を行っている		利用者の方が個別でも楽しめるようなレクリエーションの提供、家事等の提供を行っている
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、金銭管理の出来る利用者がいないため行っていない		左記のとおり
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩等は職員が付き添い対応している		車を使う様な外出は家族の協力を得て行っている
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間の行事予定にも外出を設けながら、定期的に外出が出来る様にしえんをしているが、ボランティアの方たちとの交流の機会、行事への家族の多数参加など機会を計画している		行事によっては家族にも参加してもらいながら外出を行っている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも手紙書いたり電話が出来る様に、家族にも了承を得ながら提供している		手紙を書く場所はレクレーションの中で提供している
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族だけでなく友人、知人等の面会が出来る様に家族に協力してもらっている		家族から友人、知人にも面会にきてもらえる様に連絡できる体制を整えたい
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員に身体拘束についての勉強会を行い身体拘束のないサービスの提供を出来るだけ行っている		身体に危険が予測される場合を除き身体拘束は行っていない
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	当施設は2階にあるため階段からの転落、骨折等が予想される為家族了承を得たうえでカギをかけている		鍵も必要最小限にとどめたい
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員がバイタル測定の場合で、その日の体調を確認しながら安全に安心して生活できるようにしている		左記のとおり
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	当施設は2階にあるため階段からの転落、骨折等が予想される為家族了承を得たうえでカギをかけている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ミーティングで勉強会を行い事故防止に取り組んでいる		左記のとおり

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	基本的に併設の医院の医師の指示で対応している		吸引器等の使用方法、救急蘇生法等の講習等を受けている
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行い職員、利用者に防災意識をつけてもらうように努めている		併設医院と合同で避難訓練等を行っている
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	運営推進会議にてグループホームの状況を報告し理解をしてもらいながら、対応策を相談している		会議時に家族代表に意見を求めながら行っている
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルの測定時やレクリエーションの際にも利用者の状態を見ながら、変化があるときには場合によっては併設医院の医師に連絡し診察等ができる		左記のとおり
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報等を参考にしながら、服薬の忘れ等や誤薬等の無い様子を見守りしている		服薬の管理を行いながら、それぞれの病状、薬剤について理解できるように努めている
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	下剤等だけに頼らず水分を多く取ってもらい良好な排泄の支援を行っている		下剤の使用に関しては併設医院の医師の指示のもとでおこなっている
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に口腔内のケアを実施している		夕食後には義歯洗浄剤を使用して常に清潔にできるよう支援している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事等はどれくらい摂取出来たかチェック表を作成して職員が確認し摂取量が減らない様に支援している		水分のチェックが必要な利用者にはチェック表を作成して記録を行っている
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染、衛生面では併設の医院の医師の指示のもと対策を行っている		左記のとおり
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	感染、衛生面では併設の医院の医師の指示のもと対策を行っている		左記のとおり
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	当施設の出入り口は併設医院からとホーム専用がある		どちらも入りやすく表示等がしてある
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや浴室も張り紙などでわかりやすくしてあり、居室も好みの絵などを貼って本人が自室と確認しやすくしている		廊下には皆で作った大作の季節の貼り絵等を掲示し季節の花を飾り、家庭的な雰囲気になるよう工夫している
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外にテラス、中庭など一人でもいられる空間があり、いつでも利用できる		居室だけでなくテラスにもイスやテーブルを配置している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に家族にご本人の馴染みの物を出来るだけ多く持って来て貰うようお願いし協力してもらっている		アルバム等も持って来てもらい会話の材料などに出来ている
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	感染症の対策としても換気は重要で毎朝必ず換気を行っている空調は快適に過ごせる設定で支援をしている		高齢者の体温調節機能は低下しているため冷やしすぎ、暖め過ぎに注意している
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	朝の歩行訓練がしやすい様に施設に廊下は障害物の無い様にし日々訓練を行っているまたテラスを利用して花や野菜を育て洗濯物もテラスで干せるようにしてある為利用者さんが手伝って貰えることもある		日々の生活の中で掃除洗濯等の家事を積極的に手伝ってもらいながら施設で一方的に介護を受けているのではなく共同で生活している認識を持ってもらえる支援の仕方をしていく
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入口には利用者個人の名札をつけて、居室が解らなくなる様に工夫をしている		利用者同士でも混乱しないようお互い教えあいながら生活出来ている
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	施設外周部に畑があり、ベランダにも植物を植えて楽しむ事が出来る様にしている		左記のとおり

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

診療所が併設されているので、医療、リハビリが重点的に行うことができ、急変時の対応やターミナルケアにもきちんと対応することができる。施設内でも併設の院長の指導のもと、施設内歩行訓練などを積極的に行なっている。